

マス商事

横浜で技術セミナー開く

コロナ禍で中断 情報提供を再起動

製造装置商社のマス商事は11月28、29日、テクニカルセンター（横浜市港北区）で、SMT（表面実装）関連の技術セミナーを開催した。本拠を構える横浜での技術セミナーは3月に続き2回目。タイでもセミナーを開いており、コロナ禍で中断していた情報提供を再起動させている。

同社はSMTを主力として実施してきた。コロナ禍以前は、国内で4回（うち2回は横浜）として、ヤマハ発動機製（うち2回は横浜）品をはじめ、SMT関連装置を国内や海外の顧客に提供していたが、今年3月に内外で定期的にセミナー再開し、海外ではタイで11月22、23日に開催し、情報提供で12月に本社をJR新横浜

駅前に移転。旧本社に同4月に横浜支店を、同12月にテクニカルセンターを開設した。テクニカルセンターの1階は本社移転前から常設していたショールームを残し、2階にもショールーム機能を拡張するなど、展示機種を拡充している。1階には基板供給装置、表面実装機、リフロー装置などSMTの工程で必要な装置を取



11月28日のセミナーには45人が参加し、講演に聞き入った



講演の合間にラックシステムの説明が行われた

りそろえる。2階は定期的にテーマを設定し、関連する装置を展示する方針だ。

11月28、29日にテクニカルセンターで開いた技術セミナーには、FA系をはじめ、製造企業が全国各地から参加した。参加者は初日45人、2日目が38人と想定を上回っている。

経営トップが講演

講演の内容は、「生産プログラム作成プロセスの最適化とDX化による効率的な基板データ作成のご提案」（ヤマハ発動機）、「リフロー炉と温度プロファイルフラック問題の大幅低減最新技術」（エイテックテクノロジ）、「SMDリアルラック 部品供給の効率化」（Pasision）、「生産性向上と省人化を両立するYAMAHA 1STOP SMART SOLUTIONS」（ヤマハ発動機）。各社の技術者や経営トップが講演を行った。

講演の合間に、参加者はテクニカルセンター1階に展示しているSMT関連装置に加え、部品供給の効率化につながるラックシステム、無人搬送ロボ

デモを熱心に見学した。

同社の中国の拠点であるマストレーディング（深圳）で総経理を務め、3月に帰国した廣瀬幸治東日本支店長は、閉会の際に「中国では人件費の高騰があり、省人化や無人化が進んでいる。日本では人件費の高騰というよりも、人自体が集まりにくいのが大きな問題。そこで省人化、無人化をテーマにした」と説明した。

同社は、今後も国内外でのセミナー開催を通じて、顧客に役立つ情報提供に注力していく構えだ。

無人搬送ロボ